

学位論文要旨

米国音楽療法士養成教育観の史的展開に関する研究
—関係協会の成立・分離・統合過程の分析を通して—

上野 智子

I. 論文題目

米国音楽療法士養成教育観の史的展開に関する研究
—関係協会の成立・分離・統合過程の分析を通して—

II. 論文構成

序章

- 第1節 本研究の背景
- 第2節 先行研究の検討
- 第3節 本研究の目的と方法

第1章 NAMT 設立と音楽療法士養成教育の基盤の形成と協会分離の兆し (1950-1970)

- 第1節 20世紀初期からNAMT設立以前までの歴史的変遷と音楽療法士養成教育
- 第2節 NAMT 刊行物に見られる音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 第1項 NAMT 設立とコンテンツベースのNAMTカリキュラムによる音楽療法士養成教育
 - 1-1 NAMT 設立とカリキュラム作成の経緯
 - 1-2 NAMT カリキュラム (1952)
 - 第2項 NAMT カリキュラム (1952) 後の音楽療法士養成教育の実際
 - 2-1 Harbert 「効果的な病院音楽インターンシップ “hospital music internship” の要素」 (1954)
 - 2-2 Ruppenthal 「音楽療法のための臨床トレーニングモデル」 (1955)
 - 第3項 「音楽療法士養成教育に関する今日的課題」の報告 (1957) から
 - 3-1 Gilliland 「臨床トレーニングにおける病院の責務」
 - 3-2 Harbert 「病院は養成校に何を期待するか」 (大学の立場から)
 - 3-3 Ruppenthal 「病院は養成校に何を期待するか」 (病院の立場から)
 - 3-4 Michel 「音楽療法トレーニングに入る学生のガイダンスの課題」
 - 3-5 Unkefer 「臨床トレーニング基準」
 - 3-6 Gaston 「補助療法」
 - 第4項 カリキュラム基準と臨床トレーニング基準に関する会議の報告 (1960) から
 - 4-1 カリキュラム基準
 - 4-2 臨床トレーニング基準
 - 第5項 1956-1970 までのNAMT 刊行物に掲載された音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 5-1 音楽療法士を養成するための制度やそれに伴う音楽療法士養成教育に関する内容
 - 5-2 音楽療法実践から音楽療法士養成教育への提言に関する内容
 - 5-3 音楽療法士養成教育における実際の取り組みに関する内容
 - 第6項 1969年版NAMTカリキュラム
- 第3節 著作物に見られる協会分離の兆し
 - 第1項 Music in Therapy (1968) に見られる音楽療法観
 - 1-1 構成
 - 1-2 本書における音楽療法の定義
 - 1-3 本書における実践事例の傾向および研究の手引き

- 第2項 Therapy in Music for Handicapped Children (1971)に見られる音楽療法観
 - 2-1 構成
 - 2-2 本書における音楽療法の定義
 - 2-3 本書における実践事例の傾向
- 第3項 両書に見られる当時の音楽療法観
- 第4節 小括

第2章 協会分離後の音楽療法士養成教育① AAMTの音楽療法士養成教育(1971-1986)

- 第1節 AAMT設立の経緯
- 第2節 AAMT刊行物に見られる音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 第1項 コンピテンシーに基づいたAAMTの音楽療法士養成教育
 - 第2項 AAMTコンピテンシー(1981)
 - 2-1 AAMTコンピテンシーの位置付け
 - 2-2 AAMTコンピテンシーの構成と内容
 - 2-3 Creative Music Therapyにみる高度な即興能力の育成
 - 第3項 AAMTの音楽療法士養成教育の実際
 - 第4項 AAMT Adコンピテンシー(1986)
 - 4-1 AAMT Adコンピテンシーの位置付け
 - 4-2 テンプル大学音楽療法教育研究の調査(Vol.2)にみる大学卒業後の音楽療法士養成教育
 - 4-3 AAMT Adコンピテンシーの概要と全米調査結果との関連
- 第3節 小括

第3章 協会分離後の音楽療法士養成教育② NAMTの音楽療法士養成教育(1971-1986)

- 第1節 NAMTの刊行物に見られる当時の音楽療法士養成教育の関心事と音楽療法士養成教育観(1971-1986)
 - 第1項 1970年代以降のNAMTの動向
 - 第2項 NAMT刊行物に見られる音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 2-1 Journal of Music Therapyにおける音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 2-1-1 音楽療法士を養成するための制度やそれに伴う音楽療法士養成教育に関する内容
 - 2-1-2 音楽療法士養成教育における実際の取り組み
 - 2-1-3 音楽療法士養成教育に関わる調査および実験研究
 - 2-1-4 その他(間接的な内容)
 - 2-2 Music Therapy Perspectivesにおける音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 2-2-1 音楽療法士を養成するための制度やそれに伴う音楽療法士養成教育に関する内容
 - 2-2-2 音楽療法士養成教育における実際の取り組み
 - 2-2-3 音楽療法士養成教育に関わる調査および実験研究
- 第2節 小括

第4章 音楽療法士養成教育におけるNAMTとAAMTの統合に向けた動き(1987-1997)

- 第1節 テンプル大学音楽療法教育研究の報告書(1987-1988)にみる音楽療法士養成教育

- 第1項 本研究の経緯と報告書の概要
- 第2項 報告書の構成と概要
 - 2-1 Vol. 1 の構成と概要
 - 2-2 Vol. 2 の概要
- 第3項 本書の内容に見る音楽療法士養成教育
- 第4項 テンプル大学音楽療法教育研究の歴史的意義
- 第2節 ISME 音楽療法と特殊教育における音楽部会の会議報告書（1989）にみる音楽療法士養成教育
 - 第1項 「音楽療法と特殊教育における音楽部会」の1987年1988年の会議開催の背景
 - 第2項 参加者と報告内容の分類
 - 第3項 報告書の内容
 - 3-1 NAMT および AAMT に関する内容
 - 3-2 各認定大学で行われている音楽療法士養成教育
 - 第4項 ISME 会議報告書（1989）にみる米国の音楽療法士養成教育の諸相
- 第3節 カリフォルニア音楽療法士養成教育シンポジウム（1989）にみる音楽療法士養成教育
 - 第1項 カリフォルニア音楽療法士養成教育シンポジウムの概要
 - 1-1 論文に見られる音楽療法士養成教育に対する提言
 - 1-2 カリフォルニア音楽療法士養成教育シンポジウムの提言
 - 第2項 カリフォルニア音楽療法士養成教育シンポジウムの歴史的意義
- 第4節 NAMT および AAMT 刊行物に見られる当時の音楽療法士養成教育の関心事と音楽療法士養成教育観
 - 第1項 統合までの経緯
 - 第2項 NAMT 刊行物に見られる音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 2-1 *Journal of Music Therapy* における音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 2-1-1 音楽療法士養成教育に関わる調査および実験研究
 - 2-1-2 その他（間接的な内容）
 - 2-2 *Music Therapy Perspectives* における音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 2-2-1 音楽療法士を養成するための制度やそれに伴う音楽療法士養成教育に関する内容
 - 2-2-2 音楽療法士養成教育に関わる調査および実験研究
 - 2-2-3 その他（間接的な内容）
 - 第3項 AAMT 刊行物に見られる音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 3-1 *Music Therapy* における音楽療法士養成教育に関する報告や記述
 - 3-1-1 音楽療法士を養成するための制度やそれに伴う音楽療法士養成教育に関する内容
 - 3-1-2 音楽療法士養成教育に関わる調査および実験研究
- 第5節 小括
- 第5章 協会の統合による AMTA 設立（1998）と音楽療法士養成教育
 - 第1節 AMTA コンピテンシー（1999）
 - 第1項 音楽的基礎
 - 第2項 臨床的基礎
 - 第3項 音楽療法

第2節 Clinical Training Guide for the Student Music Therapist (2005) にみる統合後の音楽療法士養成教育

第1項 概要と構成

第2項 各音楽経験の定義

第3項 各対象者に行われる音楽経験の可能性

第4項 音楽療法士養成教育課程で学ぶ臨床における音楽経験

4-1 即興演奏

4-2 演奏 (再創造)

4-3 創作

4-4 聴取経験

第5項 3つのレベルの課題にみる臨床トレーニングの考え方

第3節 AMTA 設立以降の米国の音楽療法士養成教育の動向

第4節 小括

結章 米国音楽療法士養成教育観の史的展開の意義と課題

第1節 NAMT, AAMT, AMTA の音楽療法士養成教育観の特徴と、協会の設立・分離・統合がもたらした意義と課題

第2節 現代社会における音楽療法士養成教育への示唆

第3節 本研究の成果と今後の課題

文献

- i. 史料
- ii. 引用・参考文献
- iii. 引用・参考 web 資料
- iv. 本学位論文における、筆者による刊行済みの主要論文および関連論文

III. 各章の概要

序章

本章では、本研究の背景、先行研究の検討、そして目的と方法について言及した。

近代的な専門職としての音楽療法士は、100年ほど前に生まれた比較的新しい職業である。米国においては、第1次世界大戦および第2次世界大戦の負傷兵や退役軍人に対する慰問音楽活動や補助的な医療としての音楽の使用といわれている。これらの活動が支持されたことで、専門職としての確立の機運が高まり、1950年には米国において世界初の音楽療法士の専門職団体である National Association for Music Therapy (以下、NAMT) が設立された。NAMT は、専門職としての音楽療法士の社会的地位の確立のために、協会認定資格制度の設置や認定養成校のカリキュラム作成など、様々な整備を行ってきた。しかし、1971年に NAMT から分離する形で Urban Federation for Music Therapists (以下、UFMT) が発足する。UFMT は1975年に全米団体として American Association for Music Therapy (以下、AAMT) に改称し、独自の音楽療法士養成教育を展開した。こうして2つの全米団体が存在する状況が続いたのち、1998年に American Music Therapy Association (以下、AMTA) として統合され、現在に至る。

さて、周知の事実として、AAMT が NAMT から分離した理由は、音楽療法観や音楽療法士養成教育観の違いといわれている。また、統合に際しては、栗林 (1999) 岡崎 (2002) 羽石 (2003) 豊辻 (2008) の指摘からも、1 つの全米組織になることがあらゆる面において益をもたらすと判断した結果であったことは、容易に想像できる。では、音楽療法士養成教育においてはどうかだろうか。統合に際し AMTA は、音楽療法士養成教育の指針として AMTA Professional Competencies (以下、AMTA コンピテンシー) を提示した。そこでは、コンピテンシーに基づいた教育が、多種多様な音楽療法士養成教育を包含することができるものとみなされた。すなわち、音楽療法士養成教育において提示されたコンピテンシーを満たすことは求められるが、そのための方法 (教育) については特に規定されない。したがって音楽療法士養成教育機関である各協会認定校は、それぞれの音楽療法観に基づいた音楽療法士養成教育を行うことができたのである。このような特徴をもつ AMTA コンピテンシーだが、それ自体は AMTA 設立時に独自に作成されたのではなく、AAMT の音楽療法士養成教育指針であった AAMT Professional Competencies (以下 AAMT コンピテンシー) をもとに作成されている。ちなみに、NAMT は AAMT よりもはるかに規模の大きい団体であり、音楽療法士養成教育指針はコンピテンシーではなく、コンテンツベースの NAMT カリキュラムを長らく採用していた。それにも関わらず、統合後の音楽療法士養成教育の指針には、AAMT のアイデアが採用されたのである。

では、なぜ AAMT の音楽療法士養成教育が評価されたのだろうか。要因の 1 つとして、前述したように、統合することで多様な音楽療法を包含することになる可能性に対して、コンピテンシーに基づいた教育が多様な音楽療法士養成教育を保障するという特徴をもつことで、解決策となると考えることは想像できる。しかし、なぜそのような状況になっていったのか、そして多様な音楽療法を包含したことが音楽療法士養成教育にどのような影響をもたらしたのかについて明らかにするためには、背景となる両協会の設立・分離・統合において、専門職としての音楽療法士の確立を目指す音楽療法士養成教育の営みをあらゆる角度から検討する必要がある。そこで本研究では、協会の設立・分離・統合における音楽療法士養成教育観の展開に着目した。

先行研究については、①NAMT の歴史的変遷、②音楽療法実践の概要や傾向、③音楽療法士養成教育におけるカリキュラムやコンピテンシー、④音楽療法士養成教育に対する提言、⑤個別の音楽療法士養成教育実践の 5 つの視点から検討した。先行研究において、音楽療法士養成教育は、協会史研究の中で部分的に扱われてきた他、個別の音楽療法士養成教育内容の紹介、または意識調査や教育実践の効果の検証などといった形で論じられたものが多数を占める。特に④⑤については、協会刊行物の中で個々の研究として散見されるものの、これらの一連の営みを史料として評価・検証するような研究は、十分に行われていない。

協会の統合から 20 年以上経った現在、音楽療法の理論や手法、実践領域は、今なお多様化の一途を辿っている。そのような中、音楽療法士の専門性や社会的地位は未だに不安定であり、このことは米国だけでなく日本を含め世界共通の懸案事項となっている。音楽療法士養成教育については、専門職として確立するための重要な柱の 1 つとして位置付けられており、その整備を進めるためにも議論を深めることが喫緊の課題といえよう。このような状況において、異なる音楽療法観・音楽療法士養成教育観をもった協会が設立・分離・統合という過程を辿った米国の音楽療法士養成教育に着目し、その営みを体系的に整理して論じることは、米国の音楽療法士養成教育の史的変遷の一端を明らかにするとともに、音楽療法士養成教育の在り方について重要な示唆を得ることができると思われる。このことは、米国から多大な影響を受けており、音楽療法士養成教育もまた、米国と同様に学士課程中心の養成教育を採用している日本の音楽療法士養成教育にも示唆を与えるものであると考えた。

したがって、本研究は、米国の音楽療法協会の設立・分離・統合といった動向の中で、協会刊行物を中心的史料として用い、その中の提言・提示、ならびに実践された音楽療法士養成教育から音楽療法士養成教育観の展開を読み解き、その意義と課題について明示することを目的とした。

第1章 NAMT 設立と音楽療法士養成教育の基盤の形成と協会分離の兆し (1950-1970)

本章では、NAMT が設立された 1950 年から UFMT 発足前の 1970 年までの NAMT 刊行物に掲載された音楽療法士養成教育に関する報告や記述、および当時の著書を取り上げ、音楽療法士養成教育観の変遷を辿った。

1950 年代の刊行物から抽出された音楽療法士養成教育に関する報告や記述は、協会の中核にいる人物らによって様々な提言がなされていた。その多くは新しい音楽療法士像の確立ではなく、これまでの職業的実践の蓄積から浮かびあがった「成功した音楽療法士」をモデルとし、そこから音楽性や人間性や必要となる知識や技能を見い出して音楽療法士養成教育に反映させようとするものであった。しかし、1960 年代に入ると、音楽療法という職業実践、学問の確立のために音楽療法を行動科学や自然科学として捉える必要性が音楽療法士養成教育の中で示されるようになる。そこでの音楽療法士像は、音楽技能や知識を保持しながらも、治療として音楽を用いる際、チーム医療の一員として根拠を他者に説明できる存在であった。ただし、治療効果の明示が重視されたことで、音楽の力を過信することへの警鐘や、音楽療法士養成教育の中で音楽分野の学習の割合を減らす提言も存在した。

その一方で、ノードフォーロビンス音楽療法のような、NAMT が啓蒙する音楽療法の枠に収まらない音楽療法も生まれた。ノードフォーロビンス音楽療法は、音楽を媒体とした音楽療法士とクライアントの関係性の変容から治療的効果を見い出そうとするものであり、音楽療法の過程はセッションの中で生まれ、変容する音楽そのものにあるといえる。したがって、音楽療法士は、クライアントの「いま・ここ」の表現に即時に反応できるような演奏技能はもちろん、クライアントと関係性を紡ぎながら音楽を展開できるような感性も含めた高度な音楽能力が求められた。こうした音楽療法は、NAMT が推進していた音楽療法とは性質が異なるものであり、結果的に UFMT の発足を促すものになったといえる。

第2章 協会分離後の音楽療法士養成教育① AAMT の音楽療法士養成教育 (1971-1986)

本章では、AAMT の前身である UFMT が NAMT から分離する形で発足した 1971 年から、上級レベルのコンピテンシーが提示された 1986 年までの時期を対象に、AAMT 刊行物である *Music Therapy* に掲載された音楽療法士養成教育に関する報告や記述、関連書籍等を取り上げ、AAMT の音楽療法士養成教育観の変遷を辿った。

AAMT が音楽療法士養成教育において指針として用いた AAMT コンピテンシー (1981) は、専門職として求められる必要最低限の個人の職業能力であった。AAMT コンピテンシーの最大の特徴は、高い音楽能力を求めていることである。そこには、専攻とする楽器は上級レベルの曲が演奏できるだけの技量が必要なこと、鍵盤楽器は中級レベル程度の技能が求められ、それ以外に、ギターやオートハープ、打楽器の演奏や歌唱も含まれた。さらには、音楽を歴史や構造などから分析・解釈できる力も含まれ、指揮、編曲や即興、身体表現も行い、移調や伴奏付けは読譜して行うだけでなく聴取して行うことが求められた。そして、この高度な音楽能力を基盤に、セラピーの中で適切な音楽経験を選択し、クライアントの心情や態度に応じて即興演奏や音楽作品の創作等を通して関係性を構築していくことが目指された。

さらに、AAMT は上級コンピテンシーである AAMT Ad コンピテンシー (1986) を提示した。こうした動きは、音楽療法の知識基盤の拡大や、音楽療法士が補助セラピストではなく主要セラピストとして認識

される必要性、隣接職種の音楽療法士養成教育制度に鑑みながら進められたものであり、AAMTは音楽療法を芸術療法の1つに位置付けた上で、大学院レベルの教育の充実を図った。認定校であるニューヨーク大学修士課程の音楽療法士養成教育内容からも、AAMTの音楽療法士養成教育は、全人的な音楽療法士養成教育をベースに、セラピー体験をはじめとした様々な対話や音楽経験を通して、自身が専門とする音楽療法手法を確立するというスペシャリスト型の音楽療法士を志向していた。

第3章 協会分離後の音楽療法士養成教育② NAMTの音楽療法士養成教育(1971-1986)

本章では、第2章と同時期のNAMTの動向を探るべく、NAMT刊行物である*Journal of Music Therapy*と*Music Therapy Perspectives*に掲載された音楽療法士養成教育に関する報告や記述を取り上げ、音楽療法士養成教育観の変遷を辿った。

1970年代以降、米国の音楽療法は、全障害児教育法の影響も受けながら、臨床の場はこれまでの病院中心の実践から、学校や保育園、拘置所、高齢者のためのレクリエーションセンター等に拡大し、それに伴い対象者も多様化した。そのため、NAMTの刊行物においても、領域や対象に合わせた音楽療法モデルを扱う必要性が指摘された。ただし、刊行物で紹介された大学やインターンシップ先での取り組みのほとんどが、行動科学に基づいた音楽療法をベースにした実践であった。とはいえ、行動科学に基づいた音楽療法は、体系化された手順と方法はあれども、領域や対象を限定するわけではなかった。

また、音楽療法士養成教育に関する報告や記述は、教育実践のみならず、視聴覚機器を用いた音楽療法士養成教育の効果や、大学のカリキュラムの評価、臨床トレーニングとの関連性や有効性など、音楽療法士養成教育を評価する試みが行われていた。特に質問紙調査による大学のカリキュラムの評価や臨床トレーニングとの関連性や有効性に関する調査は、この時期のNAMT刊行物における音楽療法士養成教育の特徴といえる。これらの調査結果から、音楽療法士養成教育に携わる大学教員、臨床現場で働く音楽療法士、そして学生の間で認識の違いが明らかになった。音楽療法士や学生たちは、移調や即興演奏など現場で活用できる実用的な音楽能力を重視する一方で、その基盤となる音楽理論や演奏技能、音楽療法に関連する学問についてはそれほど重視していなかった。一方、大学教員は、こうした状況に警鐘を鳴らす者もいれば、音楽療法士養成教育において実用性のある音楽の使用を重視することを主張する者もいた。つまり、当時のNAMTの音楽療法士養成教育では様々な音楽療法士養成教育観が混在する状況であったといえる。

さらに、臨床インターンシップに関する問題も明らかになった。これは、インターンシップ先と音楽療法士養成教育機関が緊密に連絡を取り合うわけではないというNAMTの音楽療法士養成教育制度上の乖離がもたらした問題でもあった。調査によって明らかになったのは、NAMTガイドラインに準拠していない臨床先があったこと、インターンシップ先と大学の距離が離れすぎており、現実問題として協力体制を敷くことができないこと、そしてスーパーヴァイザーの教育が整備されていないこと等であった。

第4章 音楽療法士養成教育におけるNAMTとAAMTの統合に向けた動き(1987-1997)

本章では、1987年以降、音楽療法士養成教育をテーマに、NAMTとAAMT関わったテンプル大学音楽療法教育研究(1987, 1988)、ISME(International Society for Music Education)音楽療法と特殊教育における音楽部会の会議報告書(1989)、NAMT主催のカリフォルニア音楽療法士養成教育シンポジウム(1989)の調査研究および報告書を取り上げ、音楽療法士養成教育について何が語られたのか、これらの3つの取り組みやその意義について考察した。さらに、統合直前の1997年までのNAMTおよびAAMT刊行物における音楽療法士養成教育に関する報告や記述を取り上げ、音楽療法士養成教育観の変遷を辿った。

テンプル大学音楽療法教育研究は、米国の音楽療法士養成教育の現状や課題を明らかにするとともに、今後の方向性を問うことを目的に行われた。そこでは、今後の米国の音楽療法士養成教育として、2つのレベルに分けて音楽療法士養成教育を行うことが提案され、特に修士課程での音楽療法士養成教育の必要性が指摘された。また、本調査ではNAMTとAAMTの音楽療法士資格の認可基準や、臨床トレーニングの比較も行われた。そこでは、両協会の違いが明示されるだけでなく、方向性の異なる2つの協会が同一の認定機関で資格認定を行っている状況を背景に、協力体制を確立することの必要性が訴えられた。

さらに、NAMTとAAMTの音楽療法士養成教育の比較は、ISME会議報告書(1989)において、より具体的に論じられた。例えばインターンシップについては、NAMTではインターンシップ先に一任する体制をとっていたのに対し、AAMTでは大学とインターンシップ先と連携しながら、インターン生を指導する体制をとっていた。また、各協会の認定校の音楽療法士養成教育についても、NAMT認定校であるカンザス大学では、音楽療法の一連の手続きが体系化され、系統性のある音楽療法士養成教育によって、様々な臨床に対応できるようなジェネラリスト型の音楽療法士を志向していた。一方、AAMT認定大学のニューヨーク大学では、音楽療法体験をはじめ、様々な経験を通じて、個人の感性や臨床的な勘を洗練させながら特定の音楽療法手法を学んでいくといったスペシャリスト型の音楽療法士を志向していた。なお、AAMTがスペシャリスト型を志向する背景の1つとして、隣接職種との競争が挙げられ、上級資格の設定についても積極的な姿勢を見せていた。

このように、NAMTとAAMTの音楽療法士養成教育の比較が行われる中、音楽療法士養成教育の実態と課題が明確に示されたのが、カリフォルニア音楽療法士養成教育シンポジウムであった。NAMT主催で行われた本シンポジウムでは、学士課程の音楽療法士養成カリキュラムが飽和状態であることから、大学院レベルの教育の充実や音楽療法士の上級資格をつくること、インターンシップ先と大学が連携し、柔軟性のあるインターンシップを行うこと、そしてコンピテンシーを音楽療法士養成教育の発展のために用いることなどが提言として示された。これらは、AAMTが進めてきた音楽療法士養成教育であり、直接的ではないものの、NAMTがAAMTの音楽療法士養成教育を評価したといえよう。

さて、こうした動向を背景にNAMT刊行物においても、NAMTとAAMTを比較検討する研究が行われるようになった。一方、AAMT刊行物では、そうした研究は盛んに行われていなかった。ただし、AAMTの認定資格では同じ資格認定機関から認定されているにもかかわらず、NAMT認定大学で音楽療法のコアコースを指導できないといった扱いに差があったことが指摘されていた。

第5章 協会の統合によるAMTA設立(1998)と音楽療法士養成教育

本章では、統合後の音楽療法士養成教育指針であるAMTAコンピテンシー(1999)と、そのもとになったAAMTコンピテンシー(1981)との比較、そしてAMTAコンピテンシーに準拠したガイド本である*Clinical Training Guide for the Student Music Therapist*(2005)の分析を行った。さらに、2000年前後にあらわれた音楽療法の新しいアプローチや議論とのかかわりを踏まえながら、統合から近年までのAMTAの音楽療法士養成教育の動向から、統合後の米国の音楽療法士養成教育について考察した。

AMTAコンピテンシー(1999)は、AAMTコンピテンシー(1981)の内容にNAMTが重視してきた音楽療法の科学的な側面を含めるとともに、倫理や研究、また文化的視点など時代の要請にも応えていた。しかし、一方でAAMTが重視していた高度な音楽能力を想像させる文言は削除されていた。とはいえ、AMTAコンピテンシーでは、科学的側面が過度に強調されておらず、音楽療法士養成教育の中で重視する点は各養成教育機関に任されているといえる。

また、AMTA 設立後の最初の臨床トレーニングガイド本である *Clinical Training Guide for the Student Music Therapist* (2005) も、AMTA コンピテンシー同様に特定の音楽療法の手法や理論に偏ることのない性質をもっていた。何より本書は、知識を単に蓄積させるのではなく、様々な要因で絶えず変化する臨床に対して明確な「答え」を提示しない。その代わりに、本書を通じて学んだ知識と学生自身の経験とを融合させ、常に問い続ける姿勢を身に付けるよう促すことで、学生自身の音楽療法観や臨床音楽家性を育てようとするものであった。

そして、統合から近年までの AMTA の音楽療法士養成教育の動向では、2005 年に上級のコンピテンシーの設定に向けた動きがあり、2009 年に AMTAAd コンピテンシーとして正式採択されたのち、大学院レベルの音楽療法士養成教育の議論が行われるようになったことを確認した。その背景には、第 4 章で指摘された音楽療法士養成教育内容の飽和という問題があった。議論の末、2030 年までに音楽療法士を修士レベルの職業とする方針が打ち出され、それまでの学士レベル中心の音楽療法士養成教育から大きく転換することが予想された。しかし、2018 年の理事会にて、組織の維持や財政的理由により修士レベル化は見送られることになった。AMTA がこのような決断をした一方で、2000 年前後から台頭した文化中心音楽療法、コミュニティ音楽療法、音楽中心音楽療法などにより、音楽療法はさらに多様化・多元化の一途を辿っている。

また、近接職種との間に起こる「音楽療法」という言葉の曖昧さの問題から、音楽療法士が音楽療法の実践範囲を自律的に規定する必要性を指摘するといった職域に関する問題も起こっている。その一方で、コミュニティ音楽療法に代表されるように、音楽療法士が音楽療法士としてではなく異なる役割を担い、セラピストとクライアントという関係を越えた活動を展開するといった、音楽療法士の方から職域を拡大するようなことも起きている。

以上、AMTA 統合後の音楽療法士養成教育は、確かに偏りのない音楽療法士養成教育指針によって自由な音楽療法士養成教育を保障したといえる。しかし、音楽療法の多様化・多元化に対して、音楽療法士養成教育がどのように対応していくのかについては多くの課題が残っているといえよう。

結章

第 1 節 NAMT, AAMT, AMTA の音楽療法士養成教育観の特徴と、協会の設立・分離・統合がもたらした意義と課題

以上を踏まえ、米国の音楽療法士養成教育における関係協会の設立・分離・統合による意義として、次の 2 点を指摘した。

第 1 に、協会の分離・統合が、米国における音楽療法の多様化と、それらの受容を促したことである。協会の分離は、新しい音楽療法を確立させただけでなく、音楽療法モデルやアプローチに適った音楽療法士養成教育を行うための環境をもたらした。そして統合では、多様な音楽療法士養成教育が行われることを保障したことで、音楽療法が多様な理論と実践を包含する存在であることを組織として明確に認めることになった。

第 2 に、コンピテンシーによる音楽療法士養成教育によって、職業としての音楽療法士像の明確化が促されたことである。音楽療法士は何をするのか、何ができる必要があるのかといった職業能力をコンピテンシーとして明示したことは、音楽療法士像の具体化、専門職性の強化に繋がった。事実、AAMT の提示したコンピテンシーには、高度な音楽能力を基盤に、セラピーの中で適切な音楽経験を選択し、音楽を媒体としてクライアントとの関係性を構築していくといった明確な音楽療法士像とそこから導き出される音楽療法観があった。しかし、AMTA の提示したコンピテンシーでは、NAMT が推進していた音楽療法の

特徴が追加されるとともに、AAMT の特徴的な内容は幾分か抑えられたことで、あらゆる音楽療法モデルおよびアプローチを包含するような音楽療法士像に変化していることは特筆すべきである。

次に課題としては、以下を指摘する。

それは、統合によってコンピテンシーによる音楽療法士養成教育になったことで、多様な音楽療法士養成教育が保障されたが、大学院レベルの音楽療法士養成教育の充実の必要性や学士課程の音楽療法カリキュラムが飽和状態にあることなど、1980年代に指摘された音楽療法士養成教育に関する問題は、未だに解決されていないことである。前述したように、コンピテンシーによる音楽療法士養成教育は、各認定大学が個性あるカリキュラムをデザインすることを可能にした。しかし、コンピテンシーによる教育の問題として Jensen & McKinney (1990) が指摘したように、コンピテンシーはあくまで既存の音楽療法士養成教育から見出されるものであり、音楽療法士養成教育やその制度について批判的に検討したり、変化を促したりするような力はもたない。1980年代に指摘された問題は、まさに音楽療法士養成教育制度の在り方を問うものであり、コンピテンシーによる音楽療法士養成教育の限界として指摘することができる。

さらに、コミュニティ音楽療法、文化中心音楽療法といった 2000 年前後から台頭してきた新しい音楽療法によって、音楽療法はより複雑な様相を見せている。それは、それまでの特定の音楽療法モデルやアプローチとは異なり、多様な音楽療法を俯瞰的に捉え、音楽療法自体の意味の拡大を促すものであり、音楽療法の多元性を指摘するものであった。したがって、現在の音楽療法士養成教育は、こうした音楽療法の姿に対してどのように対応する必要があるのかという問題にも直面しているといえる。

第 2 節 現代社会における音楽療法士養成教育への示唆

以上を踏まえ、米国の音楽療法士養成教育の成果と課題は、現代社会における音楽療法士養成教育に次の 2 点の示唆を与えると考える。

第 1 に、多様な音楽療法を包含するために、音楽療法士を養成するための制度や資格を見直す必要性である。米国では、協会の設立・分離・統合の過程を通して多様な音楽療法が認められた。そして、各々の音楽療法モデルやアプローチで求められる資質・能力は異なり、おのずと重視される知識や技能、態度等にも差異が生まれることは、音楽療法士養成教育観の変遷からも明らかである。そのため、各々の音楽療法を習得する際に、学部レベルの教育で十分に対応できるものなのか、大学院レベルの教育が必要なのかということを考える必要がある。さらには、こうした多様な音楽療法士養成教育を踏まえた上で、音楽療法士のキャリア形成を考慮しながら、音楽療法士養成教育制度や資格認定制度を整備することが肝要だろう。特に大学院レベルの音楽療法士養成教育や上級資格に関する議論は、継続教育も含めて行われるべきであると考えられる。

第 2 に、音楽療法の多元性について学ぶための学問やそのような機会の整備である。現代の音楽療法は、多様性が認められているだけでなく、音楽療法という行為を文化や社会的文脈で考えることが必要不可欠になっている。つまり、個々の音楽療法の理論や技法について学ぶだけでなく、音楽療法という行為自体を俯瞰して捉えることも音楽療法士養成教育において求められているといえよう。近年、Ansdell (1997)、阪上 (2007)、沼田 (2017) など音楽療法およびコミュニティ音楽研究者によって臨床音楽学なる学問を構築する試みが行われている。音楽療法士養成教育におけるこうした学びの確立は、緊切な課題といえよう。

また、Stige と Aarø (2019) は、後期近代化の専門職の姿を「熟練的知識の観念は疑義を呈され、専門職同士の関係性は不安定となり、フレキシブルで省察的な実践への要求は増している」(p. 391) と指摘しながらも、「専門職のコミュニティ音楽療法実践は連携 (パートナーシップ) によって発展する」(p. 398) とし、「連携の概念は専門職者の役割の交代を含んでおり、協働的プロセスにおいてそれは、エキスパートか

らリソースをもつ人へとしばしば転じる」(p.398)という。つまり、専門性を高めることは必要不可欠ではあるが、併せて他職種や隣接領域との協働の形を探れるような柔軟性をもつことが求められるといえる。

こうしたことから、臨床音楽学をはじめとした人間と音楽の様々な関係や営みに関する学問は、これからの音楽療法士養成教育に必須であろう。さらにいえば、音楽療法が多様化・多元化したことで音楽療法士や隣接職種の営みが交錯し浸潤しあっている(コミュニティ音楽やコミュニティ音楽療法、音楽教育または特別支援教育における音楽療法的活動など)ことから、音楽療法士志望の学生のみならず、音楽教育をはじめ隣接領域との相互理解や協働を促すことが期待できるような学びの場の可能性についても考える必要があるだろう。高い専門性をもちながら、様々なフィールドで他職種と柔軟に協働関係を構築できるような音楽療法士が増えることは、隣接領域との対話を生み、音楽療法研究の充実や発展に寄与するとともに、音楽療法士が対人援助や社会包摂に関わる専門職として、様々な現場において補助的に関わるだけではなく、主要的なケアとして社会に貢献できることに繋がるのではないだろうか。

第3節 本研究の成果と今後の課題

本研究では、米国の音楽療法協会を設立・分離・統合の3つの期間に分け、NAMT および AAMT の協会刊行物を中心とした史料から米国の音楽療法士養成教育の関心事や音楽療法士養成教育観の変遷を追い、その成果と課題を明らかにした。協会の分離と統合によって様々な音楽療法の確立とその包含が実現され、コンピテンシーによる音楽療法士養成教育を採用することで多様な音楽療法を学ぶことが可能になった。しかしながら、こうした多様性の包含は、統合前に指摘されていた養成教育内容の飽和をはじめとした音楽療法士養成教育の課題を根本的に解決するものではなかった。このことを、コンピテンシーによる音楽療法士養成教育の限界として指摘したことは、本研究の成果である。

しかしながら、本研究では、協会刊行物という限定的な史料を中心に分析したため、政治や社会情勢等が音楽療法士養成教育に多大な影響を与えていたことは予測できるが、本研究で扱った史料ではその点に関して十分に解明できず、本研究の限界といえる。政策やそれに関わる社会的要請と音楽療法士養成教育の関わりについては明らかにすることは、米国の音楽療法士養成教育の総体を捉える上で必要不可欠である。これについては、今後取り組むべき課題としたい。

IV. 主要文献

i. 史料

Alley, J. M., "Competency Based Evaluation of a Music Therapy Curriculum", *Journal of Music Therapy*, Vol. 15, No. 1, 1978, pp. 9-14.

Alley, J. M., "The Effect of Self-Analysis of Videotapes on Selected Competencies of Music Therapy Majors", *Journal of Music Therapy*, Vol. 17, No. 3, 1980, pp. 113-132.

Beck, J. B., Maclean, B., Pinson, J., "The Clinical Training Committee Speaks Out", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 3, No. 1, 1986, pp. 47-49.

Boone, P. C., "Future Trends and New Models for Clinical Training", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 7, No. 1, 1989, pp. 96-99.

Braswell, C., "Psychiatric Music Therapy: A Review of Profession", *Music Therapy 1961 eleventh book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 11, 1962a, pp. 53-64.

- Braswell, C., "The Future of Psychiatric Music Therapy", *Music Therapy 1961 eleventh book of Proceedings National Association for Music Therapy*, Vol. 11, 1962b, pp. 65-76.
- Braswell, C., Maranto, C. D., Decuir, A., "A Survey of Clinical Practice in Music Therapy, Part II: Clinical Practice, Education, and Clinical Training", *Journal of Music Therapy*, Vol. 16, No. 2, 1979, pp. 50-69.
- Braswell, C., Decuir, A., Maranto, C. D., "Ratings of Entry Level Skills by Music Therapy Clinicians, Educators, and Interns", *Journal of Music Therapy*, Vol. 17, No. 3, 1980, pp. 133-147.
- Braswell, C., Decuir, A., Brooks, D. M., "A Survey of Clinical Training in Music Therapy: Degree of Compliance with NAMT Guidelines", *Journal of Music Therapy*, Vol. 22, No. 2, 1985, pp. 73-86.
- Brookins, L. M., "The Music Therapy Clinical Intern: Performance Skills, Academic Knowledge, Personal Qualities, and Interpersonal Skills Necessary for a Student Seeking Clinical Training", *Journal of Music Therapy*, Vol. 21, No. 4, 1984, pp. 193-201.
- Brotons, M., "Issues in Clinical Training: International Connections: A Long Tradition", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 13, No. 1, 1995, pp. 7-9.
- Bruscia, K., Hesser, B., Boxill, E., "Essential competencies for the practice of music therapy", *Music Therapy*, Vol. 1, No 1, 1981, pp. 43-49.
- Bruscia, K., "Advanced Competencies in Music Therapy", *Music Therapy*, Vol. 6, No. 1, 1986, pp. 57-67.
- Bruscia, K., "Professional Identity Issues in Music Therapy Education", Chap. 2 in *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume one, Perspective on Music Therapy Education and Training*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1987, pp. 17-29.
- Bruscia, K., "Variations in Clinical Training: AAMT and NAMT Models", Chap. 10 in *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume one, Perspective on Music Therapy Education and Training*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1987, pp. 97-106.
- Bruscia, K., "The Content of Music Therapy Education at Undergraduate and Graduate Levels", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 7, No. 1, 1989, pp. 83-87.
- Cotton, P. D., "The Musician in an Institution for the Retarded Therapist or Educator?", *Bulletin of NAMT*, Vol. 11, No. 3, 1962, pp. 3-6.
- Darrow, A., Gibbons, A. C., "Organization and Administration of Music Therapy Practica: A Procedural Guide", Chap. 11 in *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume one, Perspective on Music Therapy Education and Training*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1987, pp. 107-126.
- Decuir, A. A., "Musicianship and Music Skills Training for Music Therapist", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 7, No. 1, 1989, pp. 88-90.
- Educational Committee, "Educational Committee Report", *Music Therapy 1952 Second Book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, 1953, pp. xv-xvii.
- Faman, L. A., "Issues in Clinical Training", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 11, No. 1, 1993a, pp. 14-15.
- Gaston, E. T., "Adjunctive Therapy", *Music Therapy 1956 sixth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 6, 1957, p. 220.
- Gaston, E. T., "Our Second Decade", *Music Therapy 1960 tenth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 10, 1961, pp. 178-180.

- Gaston, E. T., "Man and Music", Chap. 1, in *Music in Therapy*, ed. Gaston, E. T., The Macmillan Company, 1968, pp. 7-29.
- Gault, A. W., "An Assessment of the Effectiveness of Clinical Training in Collegiate Music Therapy Curricula", *Journal of Music Therapy*, Vol. 15, No. 1, 1978, pp. 36-39.
- Gibbons, A. C., "Music Therapy Education/Training at the University Kansas", *Music Therapy and Music in Special Education: The International State of the Art I*, International Society for Music Education, 1989, pp. 101-128.
- Gilliland, E. Z., "Hospital responsibility in clinical training", *Music Therapy 1956 sixth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 6, 1957, p. 211.
- Graham, R. M., "A New Approach to Student Affiliations in Music Therapy", *Journal of Music Therapy*, Vol. 8, No. 2, 1971, pp. 43-52.
- Graham, R. M., "Four questions concerning music therapy", *Journal of Music Therapy*, Vol. 10, No. 4, 1973, pp. 169-170.
- Hanser, S. B., Madsen, C. K., "Comparisons of Graduate and Undergraduate Research in Music Therapy", *Journal of Music Therapy*, Vol. 9, No. 2, 1972, pp. 88-93.
- Hanser, S. B., "A Systems Analysis Model for Teaching Practicum Skills", *Journal of Music Therapy*, Vol. 15, No. 2, 1978, pp. 21-35.
- Harbert, W. K., "The Elements of an Effective Hospital Music Intern", *Music Therapy 1953 third book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 3, 1954, pp. 194-201.
- Harbert, W. K., Gaston, E. T., Underwood, R., "Educational Committee Report NASM", *Music Therapy 1954 fourth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 4, 1955, p. 219.
- Harbert, W. K., "The Present Status of Clinical Training in Music Therapy", *Music Therapy 1954 fourth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 4, 1955, pp. 220-224.
- Hesser, B., "Advanced Clinical Training in Music Therapy", *Music Therapy*, Vol. 5, No. 1, 1985, pp. 66-73.
- Hesser, B., "Issues of Music Therapy Training", *Music Therapy and Music in Special Education: The International State of the Art I*, International Society for Music Education, 1989, pp. 71-90.
- Hesser, B., "AAMT, Coming of Age", *Music Therapy*, Vol. 11, No. 1, 1992, pp. 13-27.
- Jampel, P. F., "Education and Training Standards for the American Association for Music Therapy", *Music Therapy and Music in Special Education: The International State of the Art I*, International Society for Music Education, 1989, pp. 68-70.
- Jensen, K. L., McKinney, C.H., "Undergraduate Music Therapy Education and Training: Current Status and Proposals for the Future", *Journal of Music Therapy*, Vol. 27, No. 4, 1990, pp. 156-178.
- Krout, R. E., "Supervision of Music Therapy Practicum Within the Classroom Setting", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 1, No. 1, 1982, pp. 21-24.
- Lathom, W., "Training of Music Therapy Students in a Children's Hospital", *Bulletin of NAMT*, Vol. 11, No. 4, 1962, pp. 12-15.
- Madsen, C. K., "A New Music Therapy Curriculum", *Journal of Music Therapy*, Vol. 2, No. 3, 1965, pp. 83-85.
- Maranto, C. D., Wheeler, B. L., "Teaching Ethics in Music Therapy", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 3, No. 1, 1986, pp. 17-19.
- Maranto, D. C., Bruscia, K., *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume one, Perspective on Music Therapy Education and Training*, Temple University Esther Boyer College of Music, 1987.

- Maranto, D. C., Bruscia, K., *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume two, Methods of teaching and training the music therapist*, Temple University Esther Boyer College of Music, 1987.
- Maranto, C. D., Bruscia, K., "Refrections", Chap. 9 in *Temple University Studies on Music Therapy Education: Volume two, Methods of Teaching and Training the Music Therapist*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1988, pp. 51-60.
- Maranto, C. D., Bruscia, K., "List of Approved Academic Programs in Music Therapy", APPENDIX A in *Temple University Studies on Music Therapy Education: Volume two, Methods of Teaching and Training the Music Therapist*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1988, p. 61.
- Maranto, C. D., "The Comprehensive Training and Development of the Music Therapist: the National Association for Music Therapy and Temple University Training Program and Studies on Music Therapy Education and Training", *Music Therapy and Music in Special Education: The International State of the Art II*, International Society for Music Education, 1989b, pp. 78-80.
- Maranto, C. D., "The California Symposium: Summary and Recommendations", *Music Therapy Perspectives*, 1989c, Vol. 6, No. 1, pp. 82-84.
- Maranto, C. D., "Future Trends, Issues of Accountability, and New Models for Music Therapy Education and Training", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 7, No. 1, 1989d, p. 100.
- Maranto, C. D., "California Symposium on Music Therapy Education and Training", *Music Therapy Perspective*, 1989e, Vol. 7, pp. 108-109.
- Maranto, C. D., "Report Music and Medicine Task Force", *Music Therapy Perspectives*, 1991, Vol. 9, No. 1, pp. 98-101.
- Michel, D. E., "Problems of Guidance of Students into Music Therapy Training", *Music Therapy 1956 sixth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 6, 1957, pp. 213-216.
- Michel, D. E., "Music Therapy Curriculum Standard", *Music Therapy 1959 ninth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 9, 1960, p. 123.
- Michel, D. E., Madsen, C. K., "Examples of Research in Music Therapy as a Function of Undergraduate Education", *Journal of Music Therapy*, Vol. 6, No. 1, 1969, pp. 22-25.
- Minard, C. M., "Evaluation of Music Therapy Clinical Training", *Bulletin of NAMT*, Vol. 12, No. 2, 1963, pp. 16-22.
- Moreno, J., "The Identity of the Music Therapist", *Journal of Music Therapy*, Vol. 6, No. 1, 1965, pp. 19-21.
- National Association for Music Therapy, *Music Therapy as a Career*, National Association for Music Therapy, 1969.
- Nordoff, P., Robbins, C., *Therapy in Music for Handicapped Children*, St Martin's Press, 1971.
- Nordoff, P., Robbins, C., *Creative Music Therapy : Individualized Treatment for the Handicapped Child*, John Day, 1977.
- Petrie III, G. E., "The Identification of Contemporary Hierarchy of Intended Learning Outcomes for Music Therapy Students Entering Internship", *Journal of Music Therapy*, Vol. 26, Vol. 3, 1989, pp. 125-139.
- Petrie III, G. E., "An Evaluation of the National Association for Music Therapy Undergraduate Academic Curriculum: Part II", *Journal of Music Therapy*, Vol. 30, No. 3, 1993, pp. 158-173.
- Prickett, C. A., "The Effect of Self-Monitoring on Positive Comments Given by Music Therapy Students' Coaching Peers", *Journal of Music Therapy*, Vol. 24, No. 2, 1987, pp. 54-75.
- Ruppenthal, W. W., "A Clinical Training Model for Music Therapist", *Music Therapy 1954 fourth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 4, 1955, pp. 225-232.

- Ruppenthal, W. W., "What should the Hospitals Expect from the School?", *Music Therapy 1956 sixth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 6, 1957, pp. 217-218.
- Scartelli, J., "Accreditation and Approval Standards for Music Therapy Education", Chap. 3 in *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume one, Perspective on Music Therapy Education and Training*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1987, pp. 31-37.
- Scartelli, J., "A Rationale for levels of Certification in Music Therapy", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 7, No. 1, 1989, pp. 93-95.
- Sears, W. W., "Process in Music Therapy", Chap. 2, in *Music in Therapy*, ed. Gaston, E. T., The Macmillan Company, 1968, pp. 30-44.
- Standley, L. M., "A Prospectus for the Future of Music Therapy", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 7, No. 1, 1989, pp. 103-107.
- Staum, M. J., "Differences Between Self-Conceptualization, Focused and NonFocused Videotape Observation Takes for Developing the Observation Skills of Music Therapists", *Music Therapy and Music in Special Education: The International State of the Art II*, International Society for Music Education, 1989, pp. 94-107.
- Stephans, G., "The Experiential Music Therapy Group as a Method of Training and Supervision", Chap. 16 in *Temple University Studies on Music Therapy Education, volume one, Perspective on Music Therapy Education and Training*, eds. Maranto, D. C., Bruscia, K., Temple University Esther Boyer College of Music, 1987, pp. 169-176.
- Solomon, A. I., Heller, G. N., "Historical Research in Music Therapy: An Important Avenue for Studying the Profession", *Journal of Music Therapy*, Vol. 19, No. 3, 1982, pp. 161-178.
- Southard, S., "The Process of Student Supervision", *Journal of Music Therapy*, Vol. 10, No. 1, 1973, pp. 27-35.
- Taylor, D. B., "A Survey of Professional Music Therapists Concerning Entry Level Competencies", *Journal of Music Therapy*, Vol. 24, No. 3, 1990, pp. 114-145.
- Thompson, M. F., "Clinical Training Standard" *Music Therapy 1959 ninth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 9, 1960, pp. 125-156.
- Underwood, R., "INTRODUCTORY REMARKS", *Music Therapy 1956 sixth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 6, 1957, p. 210.
- Unkefer, R. F., "Clinical Training Standards", *Music Therapy 1956 sixth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 6, 1957, p. 220.
- Unkefer, R. F., "The Music Therapist", *Music Therapy 1960 tenth book of Proceedings of National Association for Music Therapy*, Vol. 10, 1961, pp. 27-31.
- Vescelius, E. B., *Music and Health...-Primary Source Edition*, Nabu Press, 2014.
- Wheeler, B. L., Shultis, C. L., Polen, D. W., *Clinical Training Guide for the Student Music Therapist*, Barcelona Publishers, 2005.
- Williams, T., "Some Notes, on Clinical Training", *Bulletin of NAMT*, Vol. 12, No. 3, 1963, pp. 17-20.

ii. 引用・参考文献

- Abbott, E. A., "The Administration of Music Therapy Training Clinics: A Descriptive Study", *Journal of Music Therapy*, Vol. 43, No. 1, 2006, pp. 63-81.
- Aigen, K., *Being in Music: Foundations of Nordoff-Robbins Music Therapy*, Barcelona Publishers, 2005.

- エイゲン, K./中河豊訳『障害児の音楽療法ーノードフーロビンス音楽療法の質的リサーチー』ミネルヴァ書房, 2002。
- エイゲン, K./鈴木琴栄, 鈴木大裕訳『音楽中心音楽療法』春秋社, 2013。
- American Music Therapy Association, *Expanding the Get Way to Music Therapy The 10th Anniversary Conference of the American Association for Music Therapy*, American Music Therapy Association, 2008.
- Ansdell, G., “Musical Elaborations: What has the New Musicology to say to music therapy?”, *British Journal of Music Therapy*, Vol. 11, No. 2, 1997, pp. 36-44.
- Bartoldus, S. M. H., “THE NATIONAL ASSOCIATION FOR MUSIC THERAPY: A HISTORY FROM 1981 TO 1985”, master thesis, Colorado State University, 2016.
- Boxberger, R., “A Historical Study of the National Association for Music Therapy”, Ph. D. dissertation, University of Kansas, 1963.
- Braswell, J. A., “COMPETENCY-BASED MUSIC CURRICULA IN HIGHER EDUCATION”, Ph. D. dissertation, The University of Oklahoma, 1980.
- Brooks, D., “A History of Music Therapy Journal Articles Published in the English Language”, *Journal of Music Therapy*, Vol. 40, No. 2, 2003, pp. 151-168.
- Bruscia, K., *Defining Music Therapy*, (second edition), Barcelona Publishers, 1998.
- ブルーシア, K./林庸二, 生野里花, 岡崎香奈, 八重田美衣訳『即興音楽療法の諸理論 (上)』人間と歴史社, 1999。
- ブルーシア, K./生野里花訳『音楽療法を定義する』東海大学出版会, 2001。
- Byers, K. L. H., *A History of the Music Therapy Profession: Diverse Concepts and Practices*, Barcelona Publishers, 2016.
- Davis, W. B., “Keeping the Dream Alive: Profiles of Three Early Twentieth Century Music Therapists”, *Journal of Music Therapy*, Vol. 30, No. 1, 1993, pp. 34-45.
- デイビス, W. B., グフェラー, K. E., タウト, M. H./栗林文雄訳『音楽療法入門 理論と実践 I (第3版)』一麦出版社, 2015。
- デイビス, W. B., グフェラー, K. E., タウト, M. H./栗林文雄訳『音楽療法入門 理論と実践 II (第3版)』一麦出版社, 2015。
- デイビス, W. B., グフェラー, K. E., タウト, M. H./栗林文雄訳『音楽療法入門 理論と実践 III (第3版)』一麦出版社, 2016。
- Education and Training Advisory Board “Master's Level Entry: Core Considerations”, 2010, p. 7, (http://www.musictherapy.org/assets/1/7/Masters_Level_Entry_Core_Considerations.pdf 2019年5月5日確認)
- 藤原志帆「音楽療法士養成校以外の大学における音楽療法教育の可能性ー教養教育および教育系学部専門教育に焦点を当ててー」『大分大学高等教育開発センター紀要』第3巻, 2011, pp. 1-14。
- 福井可奈「日本の音楽療法士の教育制度について: 日本音楽療法協会認定学校のカリキュラムの比較」『音楽文化教育学研究紀要』第25号, 2013, pp. 177-184。
- ガストン, T. 編/山松質文監修, 堀真一郎, 山本祥子訳『音楽による治療教育 (上巻) 実践的アプローチ』岩崎学術出版社, 1971。
- ガストン, T. 編/山松質文監修, 堀真一郎, 丹下庄一訳『音楽による治療教育 (下巻) 応用と実験計画』岩崎学術出版社, 1972。

- Gfeller, K., "Music Therapy Theory and Practice as Reflected in Research Literature", *Journal of Music Therapy*, Vol. 24, No. 4, 1987, pp. 178-194.
- Gfeller, K., "The Status of Music Therapy Research", Chap. 3 in *Music Therapy Research Quantitative and Qualitative Perspective*, ed. Wheeler, B. L., Barcelona Publishers, 1995, pp. 29-63.
- Gooding, L. F., Silverman, M. J., "MLE Comments from 2018 Regional Conferences: A Brief Report",
(https://www.musictherapy.org/careers/mle_considerations/, 2019年5月5日確認)
- Goodman, K. D., *Music Therapy Education and Training from Theory to Practice*, Charles. C. Thomas Publisher, 2011.
- Groene, R. W., Pembroke, R. G., "Curricular Issues in Music Therapy: A Survey of College Faculty", *Music Therapy Perspectives*, Vol. 18, No. 2, 2000, pp. 92-102.
- Hanser, S. B., Madsen, C. K., "Comparisons of Graduate and Undergraduate Research in Music Therapy", *Journal of Music Therapy*, Vol. 9, No. 2, 1972, pp. 88-93.
- 羽石英里「特集：諸外国における音楽療法『アメリカの音楽療法』『日本音楽療法学会誌』第3巻，第1号，2003，pp.27-35。
- 羽石英里「〈第3回学術大会 公開討論会『音楽療法士の専門性を考える』『職業的』な能力をめぐって」『日本音楽療法学会誌』第4巻，第1号，2004，pp.26-31。
- 羽田喜子，岡崎香奈「音楽療法研修生のための感性化トレーニング体験：体験記をもとにした一考察」『国立音楽大学音楽研究所年報』第17集，2003，pp.47-64。
- 濱谷紀子，坂下正幸「音楽療法士の『スーパーヴィジョン』に関する一考察」『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第27巻，2010，pp.24-34。
- 濱谷紀子，坂下正幸「音楽療法士の成長に関する研究—セラピストが成長するための示唆—」『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第28巻，2011，pp.1-17。
- Heller, G. N., "History, Celebrations, and the Transmission of Hope: The American Music Therapy Association, 1950-2000", *Journal of Music Therapy*, Vol. 37, No. 4, 2000, pp. 238-249.
- 井村直恵「日本におけるコンピテンシー：モデリングと運用」『京都マネジメント・レビュー』京都産業大学マネジメント研究会，2005，pp.93-106。
- 狩谷美穂「音楽療法士養成教育におけるヒューリスティック研究法の役割と可能性」『子ども学論集』第1巻，2013，pp.69-79。
- 国立音楽大学音楽研究所音楽療法部門編著『音楽療法の現在』人間と歴史社，2007。
- 栗林文雄「海外の音楽療法の動向—米国」『日本医師会雑誌』第22巻，第7号，1999，pp.1190-1192。
- 栗林文雄「〈講演記録〉第1回音楽療法士の教育について：カンザス大学・大学院を例に」『国立音楽大学音楽研究所年報』第19集，2005，pp.65-86。
- 古平孝子「質的事例研究の意義 特集：事例研究の意義を考える」『音楽療法学会誌』第8巻，第1号，2008，pp.51-60。
- L'Etoile, S. de, "The History of the Undergraduate Curriculum in Music Therapy", *Journal of Music Therapy*, Vol. 37, No. 1, 2000, pp. 51-71.
- Michel, D. E., *Music Therapy : An Introduction to Therapy and Special Education Through Music*, Charles C. Thomas Publisher, 1976.
- 中河豊「学としての音楽療法」『名古屋芸術大学研究紀要』第20巻，1999，pp.85-111。
- ノードフ，P.，ロビンズ，C./櫻林仁，山田和子訳『心身障害児の音楽療法』日本文化科学社，1973。

- ノードフ, P., ロビンズ, C./林庸二監訳, 望月薫, 岡崎香奈訳『障害児教育におけるグループ音楽療法』人間と歴史社, 1998。
- 沼田里衣「臨床音楽学研究試論:「音遊びの会」の事例を通して」『日本音楽療法学会誌』第17巻, 第2号, 2017, pp.124-138。
- 岡崎香奈「米国での音楽療法事情」『心療内科』第6巻(2), 2002, pp.103-107。
- 岡崎香奈「〈第3回学術大会 公開討論会「音楽療法士の専門性を考える」〉音楽療法士の専門性を考える」『日本音楽療法学会誌』第4巻, 第1号, 2004, pp.21-25。
- 岡崎香奈, 阪上正巳, 井上勢津, 中野万里子, 屋部操, 羽田喜子「音楽療法の教育システムに関する研究(中間報告)」『国立音楽大学音楽研究所年報』第19集, 2005, pp.19-46。
- 岡崎香奈「音楽療法士の世界共通資格について パート2:職業的アイデンティティとコンピテンシー」『日本音楽療法学会誌』第17巻, 第2号, 2017, p.115。
- 岡崎香奈「音楽療法士養成教育のこれからを考える 特集:音楽療法の今日的課題」『日本芸術療法学会』第49巻, 第1号, 2018, pp.16-26。
- Pearson, S., “Why Words Matter: How the Common Mis-use of the Term Music Therapy May Both Hinder and Help Music Therapists”, *VOICES: A WORLD FORUM FOR MUSIC THERAPY*, Vol. 18, No. 1, p. 2, (<https://voices.no/index.php/voices/article/view/2538/2306>, 2019年5月5日確認)
- Robbins, C., *A Journey into Creative Music Therapy*, Barcelona Publishers, 2005.
- ロビンズ, C./生野里花訳『音楽する人間 ノードフーロビンズ創造的音楽療法への遙かな旅』春秋社, 2007。
- ルード, E. /村井靖児訳『音楽療法—理論と背景—』ユリシス社, 1992。
- スペンサー, L.M., スペンサー, S.M./梅津祐良, 成田攻, 横山哲夫訳『コンピテンシー・マネジメントの展開(完訳版)』生産性出版, 2016。
- 斎藤考由「音楽療法の今日的課題 特集:音楽療法の今日的課題」『日本芸術療法学会』第49巻, 第1号, 2018, pp.36-43。
- 阪上正巳「『臨床音楽学』の可能性—音楽療法の基礎学として—」『国立音楽大学音楽研究所年報』第18集, 2004, pp.1-22。
- 阪上正巳, 岡崎香奈, 井上勢津, 中野万里子, 屋部操, 羽田喜子「音楽療法の教育システムに関する研究(最終報告)」『国立音楽大学音楽研究所年報』第20集, 2006, pp.21-48。
- 阪上正巳「音楽療法の世界的展望とわが国の課題」『日本芸術療法学会』第37巻, 第1号, 2号, 2006, pp.7-29。
- 阪上正巳『音楽療法と精神医学』人間と歴史社, 2015。
- 坂下正幸「音楽療法における専門性と資格化をめぐる言説—音楽療法界において何が語られてきたのか—」『立命館大学 Core Ethic』第3巻, 2007, pp.165-181。
- Shreve, H. S. “Music Therapy: An Historical Overview to 1976”, Ph.D. dissertation, Boston University School of Education, 1977.
- Solomon, A. L., “A Historical Study of the National Association Music Therapy 1960-1980”, Ph.D. dissertation, University of Kansas, 1984.
- Stige, B., *Culture-Centered Music Therapy*, Barcelona Publishers, 2002.
- ステーゲ, B./阪上正巳監訳, 井上勢津, 岡崎香奈, 馬場存, 山下晃弘訳『文化中心音楽療法』音楽之友社, 2008。

スティーンゲ, B., オーロ, L. E. / 杉田政夫, 伊藤孝子, 青木真理, 谷雅泰, 菅田文子訳 / 『コミュニティ音楽療法への招待』 風間書房, 2019。

田原ゆみ「日本の音楽療法が抱える職業的課題～音楽療法士たちの語りの分析から～ 特集：音楽療法の今日的課題」『日本芸術療法学会』第49巻, 第1号, 2018, pp.9-15。

竹林地毅監修, 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著『新時代の知的障害特別支援学校の音楽指導』ジヤース教育新社, 2015。

遠山文吉編著『知的障害のある子どもへの音楽療法—子どもを生き生きさせる音楽の力—』明治図書, 2008。筒井未春「音楽療法の歴史と発展：心療内科の立場から」『心身医学』第42巻, 第12号, 2002, pp.802-807。

豊辻晴香「アメリカ音楽療法士の発展に関する分析—20世紀中盤を中心として—」『純真紀要』第49巻, 2008, pp.145-157。

Wheeler, B. L., (Ed.), *Music Therapy Research Quantitative and Qualitative Perspective*, Barcelona Publishers, 1995.

Wheeler, B. L., (Ed.), *Music Therapy Research*, (Second edition), Barcelona Publishers, 2005.

iii. 引用・参考 web 資料

American Music Therapy Association (AMTA)	https://www.musictherapy.org/
Voices: A World Forum for Music Therapy (Voices)	https://www.voices.no/
The International Society for Music Education (ISME)	https://www.isme.org/

iv. 本学位論文における, 筆者による刊行済みの主要論文および関連論文

安宅智子「米国の音楽療法士養成教育に関する研究—NAMTの初期の刊行物にみる養成教育観の形成を中心に—」『音楽教育史研究』第11号, 2008, pp.1-12。

安宅智子「米国の音楽療法士養成教育に関する一考察—『テンプル大学音楽療法教育研究』(1987, 1988)を中心に—」『音楽文化教育学 研究紀要』広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座, XXI, 2009, pp.37-44。

安宅智子「1980年代の米国の音楽療法士養成教育に関する研究—NAMTおよびAAMTの刊行物にみる養成教育観を中心に—」『音楽教育史研究』第12号, 2009, pp.11-22。

安宅智子「ISME音楽療法と特殊教育における音楽部会の会議報告書(1987, 1988)にみる1980年代の米国の音楽療法士養成教育」『音楽教育史研究』第14号, 2011, pp.1-12。

安宅智子「米国の音楽療法士養成教育における即興演奏に関する一考察—*Clinical Training Guide for the Student Music Therapist*を中心に—」『音楽文化教育学 研究紀要』広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座, XXII・XXIII, 2011, pp.29-36。

安宅智子「*Clinical Training Guide for the Student Music Therapist*にみる米国の音楽療法士養成教育に関する一考察—演奏(再創造)および創作領域を中心に—」『教育学研究紀要(CD-ROM版)』中国四国教育学会, 第57巻, 2012, pp.305-310。

安宅智子「米国音楽療法士養成教育における聴取経験に関する一考察—*Clinical qTraining Guide for Student Music Therapist*を中心に—」『和歌山大学教育学部紀要 人文科学』和歌山大学教育学部, 第64巻, 2014, pp.81-86。